



米国食肉輸出連合会は、日米の食肉業界の飛躍に貢献できるよう努力しております。

Trader's Be&Po

米国食肉輸出連合会 (USMEF) <http://www.americanmeat.jp>

Volume 025 Mar 28, 2005

Trader's Be&Poはメールでもお届けします。ご希望の方は、下記にご記入の上、FAX返送してください。

お名前 様 メールアドレス @

FAX番号 03-5542-2912

「Trader's Be&Po」はインターネットでもご覧いただけます。
ご希望の方は、下記URLからダウンロードしてください。
<http://www.americanmeat.jp/publications/tnf.html>

★「Be&Po」とは、Beef(牛肉)とPork(豚肉)を合わせた言葉で、アメリカン・ミートがもたらす豊かな食の世界を表現しています。

BSE関連ニュース

●BSE発生による牛肉需要の変化なし -米国の消費者調査

2003年12月にカナダから輸入された牛1頭にBSE感染が確認されたことから、日本の業界では米国産牛肉の輸入禁止と牛肉への新たな風評被害が生まれているが、米国本国では牛肉に対する見方に変化はまったく見られない。

全米家畜生産者牛肉協会(NCBA)の最新データによると、米国の牛肉消費は2003年から2004年の間に需要ベースで約7.7%も増加しており、BSEによる影響は見られない。一方キャトルファックス社の速報値によると、購入金額ベースでは同期間で12.8%もの上昇が見られた。

この動きはNCBAの月次意識調査にも明確に現れている。今年2月実施の結果を見ると、米国では93%の消費者がアメリカン・ビーフの安全性を信頼している。同様の調査が2003年のBSE発見直後にも実施されたが、その段階でも89%の消費者がアメリカン・ビーフを信頼していると答え、極めて高い数値の結果が出ていた。日本同様に米国でも一部のジャーナリストや報道機関が扇動的な報道をする向きもあるが、一般の消費者は極めて冷静に対応していることが伺える。この背景には、日頃から政府、業界、医療関係機関による情報の開示と適切な教育活動の実施があり、それが消費者の冷静な行動や判断に結びついていることが伺える。

※2005年3月25日 MEFLレポート

米国食肉市場ニュース

～牛肉～

牛肉市況(3月7日～11日)

●週間と畜頭数：59.9万頭(前年比4.0%減)。

●肥育牛の取引価格(100ポンド[約45kg]当たり)：

主要5市場では平均93.00ドル(前週比3.09ドル高)。枝肉価格は平均149.10ドル(同7.01ドル高)。

●牛肉価格：歩留まり等級3(YG3)のチョイスは155.11ドル(前週比11.53ドル高)。YG2～3のセレクトは前週比9.99ドル高。

主要12州¹⁾のフィードロット内頭数²⁾、前年比2.0%増

(2005年3月1日現在)

	2005年 ³⁾	対前年
2月1日現在フィードロット内頭数 ⁴⁾	11,339	102.0%
2月導入頭数	1,523	94.0%
2月出荷頭数	1,634	96.0%
2月のその他の消失 ⁵⁾	76	110.0%
3月1日現在フィードロット内頭数 ⁴⁾	11,152	102.0%

オクラホマシティーにおける去勢牛の体重別、100ポンド(約45kg)当たりの価格(US\$)

体重(ポンド)	1月10日～1月14日
400～500	139.50～160.50
500～600	124.00～137.50
600～700	109.25～117.00
700～800	101.50～112.75
800～1000	98.00～103.75

※2005年3月11日 Cattle Outlook (Glenn Grimes & Ron Plain)

注：1.アリゾナ、カリフォルニア、コロラド、アイダホ、アイオワ、カンザス、ネブラスカ、ニューメキシコ、オクラホマ、サウスダコタ、テキサス、ワシントン

2.収容頭数1,000頭以上。

3.単位：1,000頭。

4.穀類あるいは他の濃厚飼料を主食とし、セレクト以上として肥育される、と畜用の牛、子牛。

5.死亡、放牧場への移動、他のフィードロットへの移動など。

※2005年3月18日 Cattle On Feed (米国農務省)



米国食肉市場ニュース

～ 豚肉 ～

豚肉市況 (3月7日～11日)

●週間と畜頭数：191.8万頭(前年比1.7%減)。

●肉豚の現金取引価格：主要市場の価格は0.75ドルから3.50ドル安の間で推移した。

100ポンド(約45kg)当りの豚肉製品価格(3月11日/US\$)

主要市場における100ポンド(約45kg)当りの最高価格(US\$)

185ポンド物(約83.5kg)の枝肉平均価格(US\$)

	3月11日
ベオリア	46.50
セントポール	48.00
スーフォールズ	—
ミズーリ中央部	49.50

	3月11日
東部トウモロコシ地帯	70.99
西部トウモロコシ地帯	70.09
アイオワ・ミネソタ	70.01
全 国	70.47

製品名	価 格 (前週比)増減	備 考
ロ イン	119.00 (+5.20)	トリム1/4インチ
ボストン・バット	100.00 (+5.50)	トリム1/4インチ
ポークベリー	87.00 (+4.00)	14～16ポンド物 (約6.3～7.3kg)
ハ ム	62.00 (-2.33)	20～23ポンド物 (9.1～10.4kg)

※2005年3月11日 Hog Outlook (Glenn Grimes & Ron Plain)

市況ニュース

●生体牛価格が高騰

カナダからの生体輸入開始延期による国内での緊急手当ての急増から、米国内の牛肉の卸売り価格が急騰し、生体牛価格は今年1月2週以来の新高値を付けた。チョイスカットアウトは5日間で100ポンド当たり12ドル値を上げた。3月9日のネブラスカ市場では、生体牛価格が前週比4ドル高の93～94ドル、牛肉価格は7～8ドル高の150ドルに達した。翌10日のサザン・プレーンズ(オクラホマ南部～テキサス北部)でも、93～93.50ドルの高値を付けた。

ボックスビーフと生体牛価格の大幅な値上がりは、カナダ産生体牛の輸入再開の遅れが主な原因。連邦地裁が再開差し止めの仮処分を決定し、さらに30ヵ月齢以下の牛由来のボンレスビーフも輸入禁止の可能性があるとの報道を受けて緊急手当てが起り、カットアウト価格は2日間で6～7ドルも上昇した。

※2005年3月14日 Cattle Buyers Weekly

●緊急手当てで、ボックスビーフ価格、回復

ボックスビーフ価格の1月以来の最高値は、需要の実質的回復というよりは小売・飲食業バイヤーによる緊急手当てが主な原因とみられる。生産者団体(R-CALF)の輸入再開差し止めの仮処分申請を受けて、バイヤーがイースター(復活祭)や月初の特売用の買い付けに走り、中間価格帯で連日の値上がりとなった。3月2週には5日間で、チョイスが11.97ドル、セレクトは10.15ドルも値上がりした。

2月は出荷頭数が少なく、フィードロット内頭数は約20万頭増加したが、当分カナダ産生体牛輸入の見込みがないため、均衡が保たれている。これらから第2四半期の牛肉生産量は約2億ポンド減少し、100ポンド当たりの生体牛価格は3ドル上昇するとみられ、5月中旬まで肥育牛取引価格が87ドルを下回ることはないとアナリストは予測している。

※2005年3月14日 Cattle Buyers Weekly

業界ニュース

●2004年、フィードロットの統合続く

昨年は、肉牛の肥育周期で最も頭数が少ない時期ということもあり、フィードロットの統合が続いた。フィードロット総数は3.2%減少したが、総頭数は0.5%の減少にとどまった。2004年のフィードロット9万176カ所の合計頭数は1,370万頭、出荷頭数は2,620万頭だった(USDA Cattle On Feed 統計)。1,000頭以上のフィードロットは全体の82.2%(前年81.5%)を占めていて、この規模全体では1,660万頭の肥育が可能だが、実績は1,130万頭で、フィードロット稼働率は68.1%だった。

また統合によりフィードロットの大型化とフィードロット総数の減少が進んだ結果、肥育頭数1,000～1万5,999頭規模のフィードロットが1.4～2.6%減少し、1万6,000～3万2,000頭以上が0.7～3.3%増加した。

※2005年3月14日 Cattle Buyers Weekly



業界ニュース

●州畜産施設の登録制度始まる

全国家畜個体識別システム(通称NAIS)に向けて、一部の州で畜産関連施設の登録が進んでいる。大半はインターネット登録だが、出張説明会の会場に設置したパソコンでの登録や、登録用紙の郵送受付を併行している州もある。対象施設は家畜農場、放牧場、せり市場、フィードロット、品評会、フェア。

またサウスダコタ州では、この3月に国内初の州牛肉認定制度を法制化した。ガイドラインに沿って肥育、処理された牛肉に認証ラベルを貼ることで、トレーサビリティが可能になる。参加する農場・牧場が支払うライセンス料は、マーケティングや牛のモニタリング費用に充てられる。

※2005年3月10日 APHISニュースリリース&Meatingplace.com

●2004年スーパー利益、わずかに減少

FMI(Food Marketing Institute)は、2004年度スーパー業界全体の利益はEBITA(利払い・税金・償却前利益)ベースで5.08%から4.20%に、純利益は売上比で0.95%から0.88%に減少したと発表した。労使問題、健康保険の費用負担、激しい競争等が原因とみている。売上規模1億ドル以下の中小規模スーパーで見ると、純利益1.45%を含め全ての利益指標で好調だった。規模を問わず、利益率上位25%のチェーンの平均純利益は3.48%、EBITAは6.72%だった。利益の伸び悩みにも関わらず、9割の小売り企業が今後の業績については「楽観している」と述べている。

※2005年3月15日 Meatingplace.com

イベント情報

FOOD EXPO JAPAN 2005 開催

3月8日から11日まで、千葉県幕張メッセで「FOOD EXPO JAPAN 2005」が開催され、国内のスーパー、レストランチェーンのバイヤーを始め、多くの来場者で賑わった。米国パッカー8社*が出展し、ポークとポーク加工食品を紹介した。USMEFのブースでは、4種類のスペシャルソース付きポークの試食会や、日米貿易協議の現況と成熟度A40を含む格付け制度の情報提供を行った。米国産牛肉輸入禁止に関するバイヤーの関心は大きく、再開の時期・再開後の輸入量についても熱心な問い合わせがあった。

*スミスフィールド、ジョンソンビル、PSF、サラリー、スネイクリバーファームズ、シュガーデール、SIGインターナショナル、タイソン

※2005年3月14日 Export Newsline

This project partially funded by US beef producers.